

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表 令和 年 4月 5日

事業所名 キッズガーデン Seeds

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	2		戸外活動で狭さを感じにくいようにしている。宿題など活動によって部屋を分けている。	
	2	職員の配置数は適切である	3	2			人員配置的には適切だがもう少し人数が居た方が子どもとの関わり方にゆとりが持てると思う。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		5		現状は肢体不自由児の利用が無いため、現利用児に対しては配慮出来ている。それぞれの児童に適した対応を心掛けている。	出入口の階段。将来車椅子利用者が出れば改善すべきだと思う。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	1	3	1	半期ごとの目標設定と振り返りを行い、上司との面談を行っている。	PDCAサイクルを意識出来ていないところがある為、各々意識して取り組むようにしていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	1	3	1	職員間で話し合いを行って意向を把握した。戸外の環境等の改善は少しずつ進めている。保護者の意向を念頭において活動を考えている。	アンケートを実施したが回答が少なかった。（6～7割）利用回数が少ない家庭等もあり、回収率を上げることは難しい面がある。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1		4		準備段階である。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2	1	個人としては外部評価を聞き支援を見直している。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			虐待防止や防犯などの出前講座を行った。時間的、人間的に余裕がない中でも研修に参加出来ている方だと思う。	受け身では今後難しいと思うので、受講可能な研修の一覧を作るなどして各々が意識的に興味を持ったものに参加できるようにしていく。
適切 な 支 援 の	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			事前に聞き取りした情報をまとめアセスメント表を作成、それを基に支援計画を作成している。職員で支援計画会議を実施している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1	1		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	1	4		平日は利用時間が短く難しいが、休日は職員皆で考えている。	チームとしてまでは至っていない、常にチームで行えてはいない面がある為、今後の課題とする。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	1	1	外出や制作など色々な活動を入れるようにしている。すでに実施した活動を考えながら固定化しないようにしている。	固定化になりがちで今までの流れにほぼ変化が無いと感じている職員もいる為、色々な内容を取り入れていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している			5	休日や長期休暇に平日出来ない活動を取り入れている。利用児に無理のない設定で支援している。	課題を決め細やかにまでは至っていないが、その都度利用児童の状況を考えながら対応していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	1		放デイのガイドラインや会社のニーズなどを考えながらその時の最善を尽くしている。	

提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	2	3		朝礼で簡単な確認は行っているが、もっと中身を工夫していく必要はあると思う。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	3	勤務時間の関係で終了後に職員が揃わないがパソコン上の連絡網や記録などで共有している。	勤務時間の都合上全員での打ち合わせは難しいが、翌日の朝礼で共有するようにしている。朝礼の中身については同上。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	1	関わりが少なかった児童については関わりがあった職員に尋ねて正しく記録している。	検証・改善につなげていくのは今後の課題。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5		会議等で現場の職員が支援経過について意見を出し、目標の達成度や支援内容について確認をしている。		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	1	4		あまり意識出来ていない為、時々ガイドラインを見直すように心掛ける。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	1	児発管もしくは管理者が参加している。	今後は現場の職員も参加していくようにする。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	3	2	下校時刻や行事予定は基本的には保護者に確認している。		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		5	現在医療的ケアが必要な児童はいないが、持病については保護者に聞き対応できるようにしている。		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		4	1		事例は少ないが機会があって必要な時は会議等に参加してきている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	3	1	モニタリングの終了評価は行っている。	前例はないが必要な時は行う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	1	3		事例は少ないが助言を求めたことはある為、今後も必要があれば行っていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1		4	地域のイベントに参加している。	保護者の中には交流を望んでいない方もいる為、その意向も踏まえて機会の必要性を考えていく。現状、小学校や支援学校、普通級や支援級と様々な在籍の児童が通所し関わりを持っていて、交流の必要性を感じない。
27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	2	2	1	地域の子ども部会には参加している。		

	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	1	連絡帳でのやり取りや送迎時に話す機会を持っている。		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		1	4	現状できていないが必要性は感じているため、今後の課題とする。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		1	利用契約時に行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1		主に管理者と児発管が行っている。相談があった際は対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5			昨年11月に初めて保護者の茶話会を行い、参加者は少なかったものの話は弾んでいた。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	1		職員間に周知し話し合っている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		3	2		会報の発行は出来ていないが、一部行事予定などはお知らせの配布などを行っている。
	35	個人情報に十分注意している	5				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	1		連絡帳への記入や送迎時に子どもの様子を伝えるようにしている。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		3	2		招待はしていないが、日頃から子どもたちに地域の方への挨拶を促している。また、活動で地域のゴミ拾いや地域で行われていた季節の行事への参加を行った。	
非常時	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	3			保護者への周知方法を今後考えていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5				
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	1		2ヶ月に1度セルフチェックを行っている。	意識付けの為に研修の機会を増やしていく。

等 の 対 応	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	4			前例があった児童に対して計画に記載した事例はあるものの、児童の場合は成長途中ということも踏まえると記載すること自体も迷うところである。今後、都度ケースごとに検討していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	3			現状、該当児童はいないが検査結果が分かるものは求めている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	2	1		作成はしているが記入があまり出来ていない。職員間で共有できるように意識して記入するように心掛ける。